

年度内にC-I-M試行

国交省基準、制度も見直し

国土交通省は、BIM（ビルディング・インフォメーション・モデリング）の土木工事版となる「C-I-M」（コンストラクション・インフォメーション・モデリング）の導入について、2012年度内に地方整備局ごとに1事業を試行することを明らかにした。今年度下期にも設計業務の委託に入る見込み。多様なデータを盛り込んだフルスペック型による先導モデル事業と、一定範囲での効果を検証する一般モデル事業の2型式での試行を検討する。試行にあわせ、国交省内部でも基準や制度の見直しに向けた検討組織を8月にも立ち上げ、導入に向けた体制を整えていく予定だ。

C-I-Mは、土木工事の設計

・積算から施工・維持管理の各段階で3次元モデルにより一元的に管理することで、手戻りの削減や施工・維持管理の効率化などを目指すもの。インターチェンジ工事など構造物が輻輳（ふくそう）する工事での利用が見込まれるほか、設備工事と一体で実施する工事にも活用が期待されて

C-I-Mの導入に当たっては各段階で3次元モデルに追加・修正ができるようにし、作業の円滑化を図る。設計段階から詳細なモデルを導入すると作成作業の負担増加や施工段階での手戻りが懸念されるため、配筋図や現地取り付け部などの設計や積算などは概略にとどめる。一方、施工段階

では設計モデルを修正して精密な施工モデルを構築する。配筋の詳細図や現地の取り付け図は施工者で作成した上で施工することになっている。また、情報化施工用3Dデータ

試行する事業は今後選定する。官房官庁営繕部などが発注したBIMの委託方法も参考にし、設計業務から試行に入る見込み。
C-I-Mの導入では、日本建設情報総合センター（JACC IC）が4月に業界団体などを交えた「C-I-M技術検討会」を立ち上げるなど、今後の方向性や具体的な活用法などの検討が本格化している。検討会には国交省もオブザーバーとして参加しており、試行した業務の状況を検討会でフィードバックしながら今後の方針を決める。

建設通信新聞

【建設ICT】

- | | | |
|----------|----------|----------|
| 1. 日経 | 2. 朝日 | 3. 毎日 |
| 4. 読売 | 5. 岐阜 | 6. 中日 |
| 7. 産経 | 8. 静岡 | 9. 伊勢 |
| 10. 中部経済 | 11. 建通 | 12. 日刊工業 |
| 13. 建設通信 | 14. 信濃毎日 | 15. 日本海 |
| 16. 建設工業 | | |